

4 教育計画

(1) 学校の教育目標

『ふるさとを愛し、ともに学び、ともに生きていく東よかつ子の育成』

－ 「元気」と「笑顔」あふれる学校 －

めざす学校像

挨拶が響く学校 美しい学校 安全・安心な学校

めざす子ども像（東よかつ子）

㊦よく学ぶ子、よく㊧かんがえる子、㊨よい意志を持つ子、㊩ころやさしい子

知の部会	徳の部会	体の部会
*学力づくり ○学びの構え（立腰） ○基礎基本の定着 ○話し合い活動の充実 ○UD教育の推進	*自信づくり ○道徳教育の充実 ○人権・同和教育の推進 ○支援体制の確立	*行動づくり ○たてわり活動の推進 ○体験活動の充実 ○美しい学校への取組 ○学習・生活習慣づくり

(2) 本年度の重点目標

① 本年度の教育の重点

ア 児童に、自分の存在を実感させ、自己肯定感を醸成していく。

- 「よかよかタイム」を位置づけた「特別の教科 道徳」の授業の工夫を核として、評価の在り方も含め道徳的実践力に培う。
- 家庭（保護者参加型授業）や地域（ぼかぼかの木）と連動した道徳性の醸成のための施策を継続し、家庭・地域への啓発のため、道徳便り「よかよか通信」を発行し、HPに掲載する。

イ 基礎的・基本的な学習内容を定着させる。

- 道徳以外の教科学習においても、「よかよかタイム」を積極的に取り入れ、対話的学びを通じた言語能力の確実な育成を図る。
- ユニバーサルデザイン教育の視点を取り入れ、視覚化・焦点化・共有化を意識した学習展開の工夫と学習環境を整備する。また積極的にICT機器の利活用を行う。

ウ 特別支援教育の体制作りと支援方法を確立する。

- 通常の学級の在籍する困り感のある児童に対し、チームで連携した支援体制を整えるとともに、発達障害やその傾向なる児童への支援方法を確立する。
- 不登校傾向の児童に対し、計画的なケース会議を通して、スクールカウンセラーやサポート相談員等との連携を含めて、チームで連携した支援体制を整える。

エ いじめに対する予防的指導を多面的に行っていく。

- 「ぼかぼかの木」活動に年間を通して取り組ませ、児童相互の肯定的な見方や接し方を身に付けさせ、望ましい人間関係作りと自己肯定感の醸成をめざす。
- 「いじめアンケート」を実施し、実態把握をもとにいじめに繋がる問題行動等への指導強化を図る。必要に応じて、SC・サポート相談員・関係機関とも連携する。

オ 市民性を育むために、教育活動の展開を工夫する。

- 生活科や総合的な学習（よかつ子タイム）の内容を再構成し、積極的に地域の物的・人的学習環境を導入する。

- 「シチメンソウまつり」「東与賀町文化祭」等の地域行事へ参加し、地域の一員であることを実感させる。

② 本校の教育の特色

ア 心の教育の推進

- 重点内容項目を中心として、「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、道徳性を養う。
- 地域の人的・物的学習環境等と連動した栽培活動や自然体験活動等の体験学習を通して、感性に培う。
- たてわり活動や学級・学年活動を推進して、異年齢・同年齢の児童同士の良好な関わり、ふれあいを通して、人間関係力を醸成する。

イ 基礎的・基本的学習内容の定着と学習習慣の形成

- 算数の学習において、TT や少人数での授業を仕組み、きめ細やかな指導で、基礎・基本の定着や活用力を身に付けさせる。また、補充指導も計画的（土曜授業の活用）に実施する。
- 国語・算数の授業の導入時、1分間、音読や計算に取り組みせ、授業への心構えと脳の活性化を図る。
- 学期ごとに検定テストを実施し、基礎・基本の力をつける。
- 学びへの構えとして、「聴くこと（立腰）」と学習習慣（「学習のやくそく」）を身に付けさせる。

ウ 特別支援教育の充実

- 支援を要す児童（三段階）の支援・指導計画を立て、全職員で共通理解を行い、きめ細やかに支援する。
- 校内支援体制の強化のため、関係機関と連携しながら適宜ケース会を設定し、適切な支援を推進する。

エ 健康教育の推進

- 運動を推奨し、心身ともに健康な児童を育成する。（よかつ子オリンピックの開催；毎学期）
- 学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の定着や食育、保健指導・保健学習を推進し、健康やかな生活をめざす。

オ 安心・安全な生活づくり

- 交通指導員やPTA（挨拶運動）、よかつ子見回り隊等、地域の方の見守りによる集団登校、安全な下校を継続する。
- ヘルメット着用や防犯ブザー携帯、名札着用の徹底（生活チェック表）に取り組み、安全な生活への意識を向上させる。「交通安全とヘルメット着用を誓う日」として、『あさひさんの日』（4月14日）を行う。

カ 幼保小連携、小中連携の推進 ～15の春、夢にむかって～

- ソフトプログラム「わくわく」を積極的に活用し、幼保小の相互授業参観、児童・園児による交流を充実させる。
- 義務教育9年間を見据え、各教科等の（研究）授業の相互参観や児童・生徒間交流、生徒指導上の情報交換等、小中連携による学習指導・生徒指導の連続性を重視していく。

キ 開かれた学校づくりの推進

- 学校説明会、学校からの各種便り、HP 等を通して学校情報を発信し、家庭や地域に、教育活動への理解を促す。
- 「家庭での5つのめあて」を浸透させ、学習習慣・生活習慣づくりを、家庭と連動して推進する。
- ゲストティーチャーの導入やまちづくり協議会と連携した体験活動を行い、地域とのつながりを促進する。
- 地域行事へ児童を積極的に参加させ、地域の一員であることを意識づける。